

適正な水循環の確保、適切な水利用

事例名	14. 湧水の利用
工事名	長崎港環境整備工事
施行場所	長崎市 出島町・常磐町
事業年度	平成元年度～平成15年度
実施機関	港湾課、臨海開発局（現在：長崎港湾漁港事務所）
適応可能な事業	公園、漁港、道路、河川

<具体的な環境配慮内容>

近辺の山々で生じた湧水を公園内まで引き込むことにより、この湧水を公園内のトイレ（水洗面）、植栽への散水、子供たちが遊べる噴水やせせらぎなど多くのものに有効活用している。

[供給量] 湧水の量：約 2.0 m³/分

[使用量] 滝「湧き水の滝」：約 0.4 m³/分

噴水「水の劇場」：約 1.0 m³/分

散水・トイレ：約 0.2 m³/分

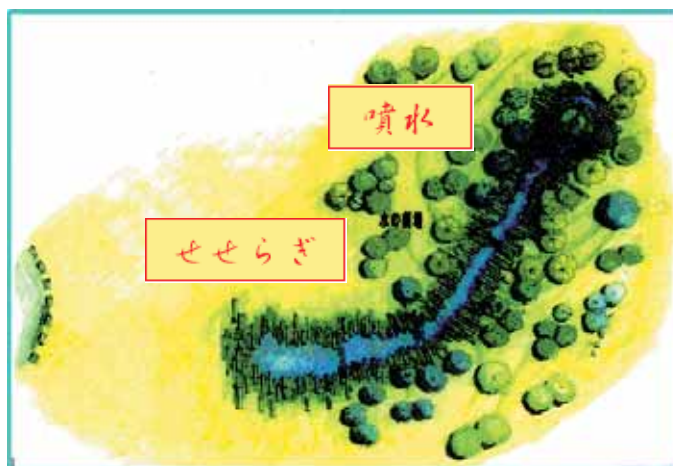
合計：約 1.6 m³/分

また、上水道は水飲み場とトイレの手洗いに利用しているのみで公園の水のほとんどはこの自然の湧水でまかなっている。

<環境配慮の目的と視点>

樹木にやさしい自然の水を散水でき、かつ維持管理費の軽減を図ることができる。また、自然の湧水は四季を通じて一定で安定した水量が見込まれる。

<環境配慮技術の概要>



「水の劇場」



直接手で触れられる噴水

湧き水を効果的に活用した
せせらぎ



水辺の森では湧水を
利用して散水

< 環境配慮による効果 >

噴水及びせせらぎではほぼ年間を通じての利用が見られ、子供たちの遠足の場、家族連れの憩いの場として利用されている。

また、「水の劇場」から湧水＝自然の水が海水に流れ込み海水と淡水が混ざり合う低塩分の水域（汽水エリア）「生命に学ぶエリア」を創っている。これにより、小魚、カニなど多くの生物が活発に活動している。

樹木への散水も根の活着を促し、台風通過後の木々の塩分の洗い流しなどにも利用されている。

< 課題等 >

夏場で散水利用が多くなる時期での水量の確保などが課題となる。

< 同技術を採用した他の事例 >

工事名称	実施機関